

ポイント 5 副作用はないか

ヒアリング時 薬の副作用に対する恐怖心から、服薬を拒んでしまうことがあります。副作用の確認は、まずは「食事」「排泄」「睡眠」「運動」「認知機能」の5領域から患者様に質問を投げかけてみるとよいでしょう。

例えば「ごはんはおいしく食べてますか?」と質問したときに、「おいしくない、味がわからない」という場合



薬の副作用による味覚障害を疑うことができます。また、認知症治療薬や抗精神病薬を服用中の患者様では、錐体外路系の副作用によってパーキンソン病様の運動障害が見られることがあるので、患者様の動きをチェックすることも大切です。

ポイント 6 処方薬が患者様にとって適切な剤形となっているか

ヒアリング時 患者様本人もしくは介護者に「お薬が飲みにくかったりすることはありませんか?」と聞いてみましょう。飲めない理由が嚥下困難である場合、薬剤の飲み込みにくさについて主治医・処方医にすでに伝えてあるかどうかを確認しましょう。



ポイント 7 薬は適切に保管・管理されているか

ツールの提案 患者様に「残薬はありますか?」といきなり尋ねても、簡単には答えてくれません。



そこで、自宅に保管されている薬を持参していただくための「ブラウンバッグを活用すると効果的」です。ブラウンバックを準備できない場合は、レジ袋を代用するとよいでしょう。

患者様にブラウンバッグを渡す際は「この袋は、患者様が生活に合った服薬をするための相談袋(回収袋)なんですよ」というような表現の工夫が必要です。

ポイント 8 正しく服薬できているか

ツールの提案 用法・用量どおりに服薬ができているかを確認しましょう。残薬の発生状況は、お薬専用のごみ捨てケースを作り、介護者の方に飲み終わったお薬のごみを確認してもらうと把握しやすくなります。「飲み終わった後のお薬のごみは、こちらのケースに入れてください」と伝えるとよいでしょう。認知症患者様は、自分自身で認知症だと気づかないケースがあります。説明は無理に強調せず、相手の状況を理解し、自尊心を傷つけないように向き合うことが重要です。



ゴミ捨てケースのデザイン性を高めることで、捨ててもらいやすくなります。

ワンポイントアドバイス

残薬発生要因は、患者様の生活背景を知ることで見えてきます。患者様の生活状況や服薬状況は、定期的・継続的に確認することが大切です。



残薬解消のために

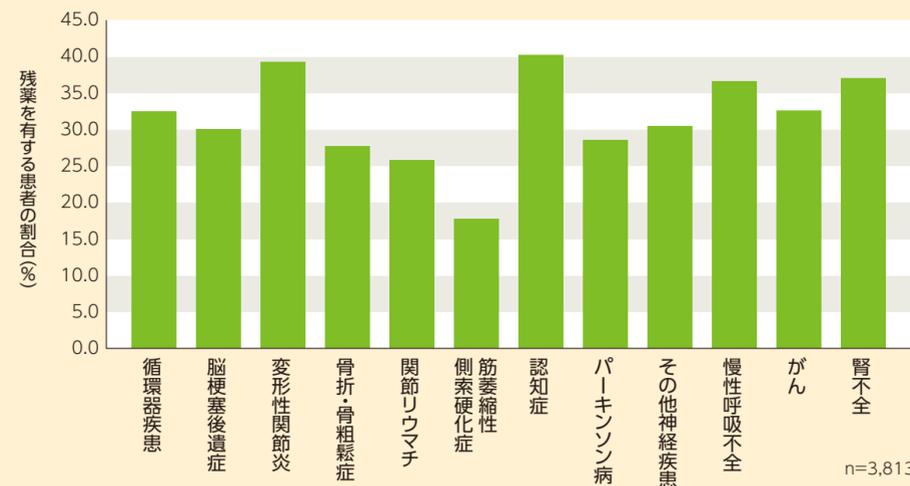
薬剤師さんができること

監修：クリーン薬局 管理薬剤師 大木 一正 先生

残薬は、疾患の種類を問わず、様々な患者様で発生しています。特に、服用する薬剤の種類数が多いほど、残薬は発生しやすくなる傾向にあります。残薬解消のためには、患者様の背景を理解し、対策につなげることが重要です。

疾患別の残薬発生状況

疾患別で差はあるが、それぞれの疾患で一定程度残薬が発生している。



調査対象 3,321薬局を対象に、訪問患者5,447名の患者データを回収。主疾患の特定が可能な患者データを集計。
調査期間 2013年1月15日～2月末

【出典】薬剤師の在宅医療サービスによる残薬解消効果(医薬品情報学 vol.17, No.1 (2015)) ※根拠データを用いた追加分析の結果を基に作成
中医協 総-3 27.11.6.P41

1 薬局窓口での残薬確認 背景と確認ポイント P2-3

2 残薬解消への解決方法 P4-5

Eisai 毎日の服薬と見守りをサポートします。

eお薬さん

3つのソフトウェアをご用意 (1日1回28日、2回14日、4回7日)

- 1日4回*まで タイマー設定が可能 *1日4回のソフトウェアご利用時
- スヌーズ機能で 繰り返しお知らせします
- トレー引き戻しと、間隔制限により 過量服薬の防止に役立ちます

ご自宅での お薬の飲み忘れや 飲み過ぎの防止に 役立ちます。

クラウドで 情報を管理します

- お薬ケースの取り出しをメールで配信
- 毎日の情報を蓄積

●機器に関するお問い合わせ
☎ 0120-71-0933
コールセンター(平日9:00~17:00 除 土日祝、エーザイ休業日)

※当機器は医療機器ではありません。
※当機器のご使用方法およびご使用上の注意につきましては、当機器の取り扱い説明書をご覧ください。

EOK1811C12

eお薬さんの紹介サイト
<https://e-okusurisan.com>

eお薬さん

1

薬局窓口での残薬確認

背景と確認ポイント

薬局窓口で何ができるか

確認から対策がみえる

ハイリスク薬など、特に注意が必要な薬剤を処方されている患者様には、薬の使用状況や残薬状況などをしっかりと確認することが重要です。さまざまな角度から残薬発生の要因を捉え、対策につなげましょう。



残薬対策8つの確認ポイント

ポイント1 服薬に関わっているのは誰か

来局時

認知症患者様の場合、1人で薬局を訪れるケースは少なく、家族や介護職の方と一緒に来られるケースが多いです。介護職の方は制服を着用していることもありますので、**相手が親族の方なのか、介護職の方なのかを見極める**ことがポイントとなります。



ポイント2 複数の医療機関を受診していないか

薬歴確認時

患者様のお薬手帳がきちんと活用されていれば、そこから受診状況や服薬状況を把握することができます。お薬手帳が活用されてなく、患者様が服薬中の薬の内容について答えられない場合は、まずは**患者様の住環境を確認し、生活背景を捉える**ことが大事です。処方元の医師に確認ができる状況であれば「**本日来院された〇〇さんはどのような患者様ですか?**」と聞いてみるとよいでしょう。

ポイント3 調剤日数と調剤間隔にズレはないか

薬歴確認時

患者様の来局サイクルを確認することが大事です。例えば、毎月28日に来局しているのに、来局する日が遅くなり、処方日数とつじつまが合わないことがあります。このような場合は、「**今回は来局が遅いですね。お薬は大丈夫でしたか?**」というように何気なく残薬の状況を探ってみるとよいでしょう。

ポイント4 残薬の本当の理由は何か

ヒアリング時

患者様の生活に合った形で、薬が処方されているかを確認することが大切です。よくある例として、食事をいつも1日2回しか摂らない患者様に、1日3回の薬が処方されている場合に残薬が発生することがあります。このような場合は、「**1日2回のお薬に変更できるか先生に相談しましょうか?**」と聞いてみるとよいでしょう。



2

残薬解消への解決方法

原因に応じた対策を講ずることで残薬解消が可能です!

残薬のある患者様5つのタイプ別対策

タイプ1 薬の理解不足

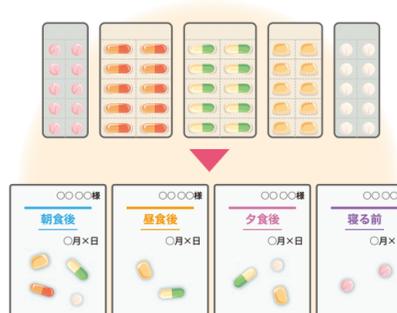
医療用語や専門用語はできるだけ使わず、**ゆっくり、短く、簡単に説明**を行うことが重要です。例えば、認知症の薬を説明する際に、「**これは認知症のお薬です**」と説明するよりも「**これは記憶に作用するお薬です**」というような伝え方の工夫をすることで、患者様のアドヒアランスが改善することもあります。

POINT 処方元の医師にもこのような伝え方をしている旨を報告し、医師と薬剤師が共通認識を持って患者様と接することができれば望ましいです。



タイプ2 薬の保管状況が悪い

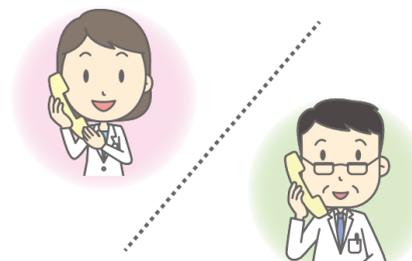
薬の保管状況が悪い患者様には、一包化が効果的です。**一包化をする際は、患者様の生活状況に合った形で分包**することが大切です。例えば、**服用するタイミングによって色をつけたり、日付を印字**したりするなどの工夫を取り入れるとわかりやすいでしょう。



日付を印字することで、飲み忘れがいつ起こっているかの把握にもつながります。

タイプ3 薬が飲みにくい

患者様ごとの適切な服用形態の選択と、医師への提案を行います。嚥下ゼリー、オブラート、簡易懸濁液などの導入も適宜提案しましょう。剤形を変更する場合は、**バイオアベイラビリティ、有効性、安全性に対する影響**がないかを確認しておくことが大切です。



タイプ4 副作用が怖くて飲まない

副作用についての恐怖心・不安をしっかりと聞いてあげることが重要です。患者様が医師にうまく相談できないという場合には、**トレーシングレポート(薬剤情報提供書)を作成**し、患者様の訴えることを箇条書きにまとめたものを、患者様から医師に渡してもらうとよいでしょう。



タイプ5 自分で服薬の管理ができない

高齢でヘルパーの介助を必要とするような患者様では、ハイリスク薬が処方されていることも多く、特に注意が必要です。このような患者様には、**服薬支援ツールを活用**すると効果的です。



服薬支援ツールの活用(例)

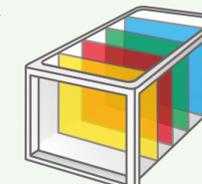
服薬カレンダー

曜日・飲むタイミングごとにポケットがあるので、飲み忘れを防ぐことが期待できます。家族やホームヘルパーの人に手伝ってもらうことも可能です。



服薬ボックス

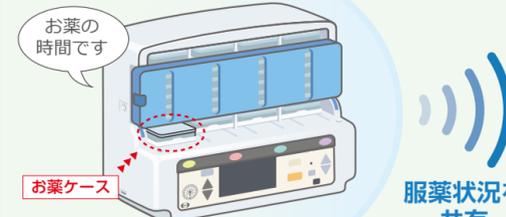
服薬のタイミングごとに色を分けるなど、患者様にわかりやすくする工夫が大切です。



通信機能付き服薬支援機器

最近では、通信機能が付いた服薬支援機器も販売されています。家族の携帯電話等に服薬の状況をメールで伝えたり、インターネットを介してデータを共有できたりする機器もあります。

服用時点で必要な分のお薬を提供(音声案内)



服薬状況を共有



通信機能付き服薬支援機器 (「e お薬さん」©エーゼイ株式会社)
 ※当機器は医療機器ではありません。
 ※当機器のご使用方法およびご使用上の注意につきましては、当機器の取扱説明書をご覧ください。

※服薬支援ツールは薬を飲む時間帯に患者様ご本人がいる可能性の高い場所を選定し、**目につく場所に設置**することが大切です。

ワンポイントアドバイス

ヘルパーと同行して来局される患者様の場合では、**在宅の服薬支援を必要**とされていることが多いです。大きな荷物や、薬剤を患者様の自宅へお届けする場合など、**自宅を訪問するきっかけを活かし、在宅の服薬支援につなげ**ましょう。